第 14 回 日本がん・生殖医療学会学術集会
O1-01
水戸、2024.2.10-11

未成熟卵の体外成熟培養を用いた妊孕性温存療法(Onco-IVM)における有用性の検討

井谷裕紀[1,2]、境眞実[1]、樽井幸与[1]、水野里志[1]、藤岡聡子[1]、福田愛作[1]、森本義晴[3]

[1]IVF 大阪クリニック、[2]広島大学大学院統合生命科学研究科、[3]HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】
原疾患治療に緊急を要する場合，妊孕性温存目的の卵子凍結保存(Onco-卵子凍結)等が困難なケースがある. 体外成熟培養(IVM)は短期間で採卵可能且つ卵巣組織凍結より簡便である. 本研究では Onco-卵子凍結と Onco-IVM の成績を比較し，現状を示す．又，Onco-IVM と多嚢胞卵巣症候群(PCOS)等を対象とした IVM(Normal-IVM)を比較し, IVM 成績について検討した.
【方法】
2006 年 1 月～2023 年 6 月迄に調節卵巣刺激法による Onco-卵子凍結を実施した 35 名 42 周期, 2020 年 2 月～2023 年 7 月迄に Onco-IVM を実施した 10 名 10 周期を対象とし年齢, AMH 値，当院初診から採卵迄の日数，採卵数，成熟率，凍結実施数を其々比較した．また Onco-IVM と同期間で Normal-IVM を実施した 24 名 27 周期を対象とし年齢，採卵数，成熟率を其々比較した.
【成績】
Onco-卵子凍結と比べ Onco-IVM において，初診から採卵迄の日数(26.2±24.7 vs. 2.3±1.0 日，$p<0.05$)は有意に短く，採卵数(13.5±9.7 vs. 5.3±3.2 個)，成熟率(87.5±14.9 vs. 33.7±34.2 %), 凍結実施数(12.0±8.8 vs. 4.6±3.1 個)は有意に低かった($p<0.05$). 又, Onco-IVM は Normal-IVM と比べ採卵数(5.3±3.2 vs. 14.4±8.3 個，$p<0.05$)が有意に少なかった．両検討において他の項目に差は無かった.
【考察】
Onco-IVM は Onco-卵子凍結と比べ採卵が短期間で可能だった．Onco-IVM の成熟率は Onco-卵子凍結と比べ有意に低かったが，Normal-IVM と差は無く，成熟能は同等と考えられた．IVM 間の採卵数の差は PCOS 既往に起因すると考えられた．従って，卵数の多寡を問わない緊急の妊孕性温存療法として有用である.